

1万人の人口に対し65歳以上が占める割合は約45%に達する海陽町。超高齢化の状況にあることから、町では若い現役世代の移住支援を積極的に行ない、仕事の紹介もしている。「移住を決めたのは仕事があったから。町が介護施設の仕事を紹介してくれたんです」という森永健太郎さん(40歳)は香川出身。以前から波を求めて海陽町へ来ていたが、もっと波のそばで暮らしたいと、町の支援を得て移住を決めた。

「生活は安定しているし仕事の日も朝や夕にサーフできる環境は海陽町ならではの。公私のバランスは抜群です」

実際に移住をしてきて得た充実の暮らしぶりは、笑みの絶えないその表情にしっかりとあらわれていた。

町の手厚いサポートを受けて、 移住する若い世代が増加中

海だけじゃなく
山もきれいなんです



2



4



1. 健太郎さんと奥さんの亜季さん。ふたりは今の職場で出会い結婚へ。
2. ふたりが働くグループホームは、自宅からクルマでわずか数分。24時間交代制でスタッフは働き、夜勤などもあるが、そのぶん日中はサーフィンができる。
3. 遊び道具が詰まったガレージ。ビッグウェイブ用のガンもあった。
4. 庭で家庭菜園を行うなど、暮らしは優雅そのもの。



3